

学生大使 実施報告書

氏名：伊藤優志

学部・学科（コース）・学年：医学部医学科一年

派遣先大学：ガジヤマダ大学

派遣期間：2024年02/26-03/13

1 日本語教室での活動内容

初級者、中級者、上級者グループに分かれて授業を行った。派遣人数が三人であったため、ローテーション方式で一人一クラスを担当する形で授業を行なった。三人それぞれ、教える内容はカリキュラムを作ることはせず、各々で授業内容は異なっていた。私は初級クラスにおいては基本的な日本語の仕組みとひらがなとカタカナを教えるようにした。初級クラスにおいては、似ているひらがなを見分けることに苦戦する様子が見受けられた。中級者クラスにおいては、基本的な自己紹介や曜日、時間の数え方を教えた。上級者クラスにおいては、日本語で会話を行うことを心がけた。日本語の質問で印象的であったかつ回答が困難であったのは、数詞の音読みと訓読みの使い分けをどのようにして行なっているか、をとにの、助詞の使い分けをどのように行なうかであった。

2 日本語教室以外での交流活動

昼と夜は必ずといっていいほど、現地学生とご飯を食べに行っていた。インドネシア料理の特徴としては、イスラム教が多いためか豚肉の料理は存在せず、多くは鶏肉と魚肉であった。また味としては甘味と辛味が際立っていた。印象的な食材としてはアボカドが挙げられる。日本では、サラダに活用されることが多いが、インドネシアではジュースとして利用され、食文化の違いを感じた。休日は授業がなかったため、様々な場所に案内してもらった。まず初めの土曜日はジョグジャカルタの名所を案内してもらった。プランバナン寺院は石材で出来ている塔でありヒンドゥー教の神が祀られていた。塔の意匠も細かく歴史的な背景も寓話のかぐや姫に似ていて面白かった。午後はウレンスタウ博物館に行った。インドネシアの王室がどのように四つに分裂していったのか、王族の衣装に込められた意義は何かをガイドが英語で解説を行った。その後現地の動物園に行った。動物園は日本とは異なり、動物との距離が極めて近く、熱帯で特徴的である、豹や巨大な魚を観察した。

日曜日にはクラトンに行った。王室の舞踊の練習風景を見学したのち、結婚式の禊の儀式などの解説を現地学生が行ってくれた。次に週の金曜日にはフェアウェルパーティーを日本語の仲間が開催してくれた。私は空手の型を披露した。

土曜日にはレンタカーに乗って、熱帯雨林と海に行った。熱帯雨林においては野生の猿を観察することが出来た。その後、イピ先生の自宅において夕食をご馳走になった。バナナの詰まったパンや日本の笹寿司に近いものを頂いた。最終週の日曜日にはジャワ式の結婚式に参列した。結婚式は参加人数が二千人を超え大規模のものであった。私以外の二人が花笠踊り

【学生大使 実施報告書】

を披露した。

毎日夜は私達の不測の事態に備え、現地学生が夜遅くまで私たちの宿泊場で待機してくれていたのも、たまに学生達に混ざってカードゲームをしながら色々な話をしていた。日本やインドネシアの話を初めとして、個人の込み入った話もしていた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

四割程度である。日本語、日本文化を紹介する上で確証を持って質問に答えることが出来なかった場面が多々あった。図示をして分かりやすく伝えることに努めたが、もっと様々な資料を持ってきたら良かったと振り返って感じた。

4 プログラムに参加した感想

まず初めに得た印象としては日本とは異なり、客引きが激しいということであった。空港を出た瞬間から激しかった。次にガジャマダ大学を訪れた感想としては、とにかく敷地が広大であり、学部や食堂が無数に存在するマンモス大学であるということであった。大学内にカフェがあり、普通にバイクやバスが走っているとは思わなかった。総合大学とは知っていたがアメリカの大学のように大きいとは思わなかった。また食堂での支払いは現金であるとの考えを持っていたが電子化が進行していた。学生の印象としては正直語学においては差を感じた。現地のインドネシア語、ジャワ語だけでなく、英語も話すことにおいては全ての学生が長けていて、さらに日本語も全体的にレベルが高かった。さらに大学内では禁煙である一方、喫煙するものが目立ったことやインドネシアのムスリムの割合が多いがために、祈りがスピーカーで大音量で流されていることが印象的であった。さらに現地学生と話をしていたのは事前に想定したよりも、宗教についてはゆるく実践しているということである。イスラム教は厳しいとの固定概念があったことに気がつかされた。またイスラム教徒とキリスト教徒の仲はあまり良くないとも思っていたがそれもまた偏見であることに気がつかされた。ただ、それだけではなく結婚においては宗教が問題になってくるとの日本にはない新たな視点を得ることも出来た。

IDカードに個々人が信じる宗教が載せてあるのは多宗教国家ならではあると思った。また予想と真逆であったのは雨季があるため、雨に慣れているので雨が降っている時は普通に移動をするのかと思ったら、雨が降っている際は、部屋で雨が止むのを待つということである。また二週間を振り返って思うのは、UGMの学生は非常に優れた能力と人格を兼ね備えていた。どの学生においても、私たちのことを気にかけてくれ、心が温まる体験であった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は日本国内に留まらず、海外においても活躍出来るような人物になりたいと思った。今回インドネシアに滞在する中で文化の違いや言語の壁はあれど、人と人は分かり合える存在であると思ったので、どこで災害や貧困があったとしても協力出来る最低限の能力を備えたいと思った。また単純に日本のことしか知らないのは人生においても損であると思うような体験であった。世界のそれぞれの文化にはそれぞれの良さがあることを

【学生大使 実施報告書】

知った。様々な文化背景を持つ人々と交流する機会が持てるような環境に身を置きたいと思った。そのため、私は今後の展望として具体的には医学生としてアメリカの医師免許の取得を目指したい。この免許を取得すると世界中の多くの場所で働くことが容易になるためである。また英語だけでなく可能であれば第二、三外国語も習得したい。ほとんどあり得ないことではあるが、もしもインドネシア語を自分が理解していればもっと面白い体験ができたであろうと思うことが多かったからだ。

6 現地での活動写真

プランバナン寺院を訪れている様子



現地学生との昼ご飯



【学生大使 実施報告書】

夜ご飯



日本語教室での記念写真

